

家事分担に関する意識調査の結果報告について

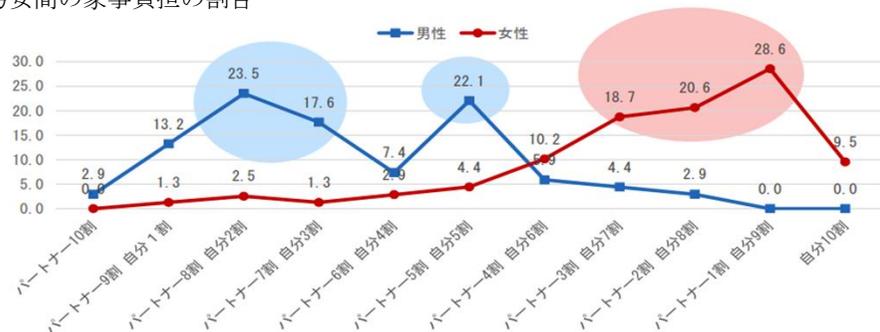
令和6(2024)年2月13日 生活文化スポーツ部人権男女共同参画課

1 調査内容

調査目的：県民の家事分担に関する認知・関心の把握 調査対象：県内在住の20代～40代の男女 調査期間：2023年12月5日～19日 有効回答数：498サンプル(人)

2 調査結果

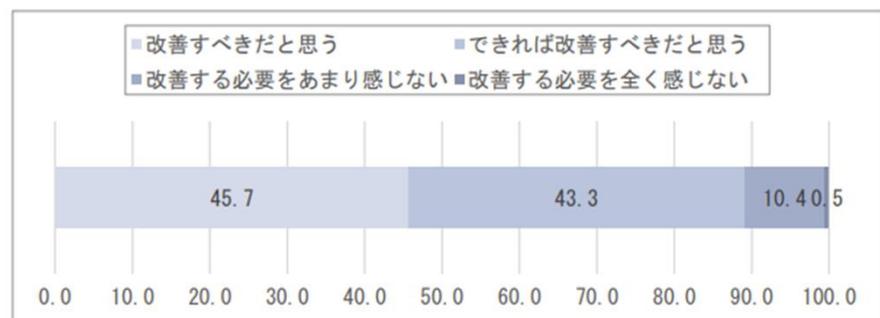
○男女間の家事負担の割合



男女とも女性が7～9割になっているという認識が多い。一方で5：5との認識の割合は女性より男性の方が多く、その点に男女間の認識のズレが見られた。しかしながら分担割合5：5の内訳をみると男性30代(45.5%)、男性40代(17.9%)と若い男性ほど分担意識が高い傾向を示した。

○家事分担に関しての改善意識

Q家事労働の女性への偏りについて、どのように考えるか？



改善の必要を感じるという回答が全体の89%を占めた。解決策では、「男性の職場環境(労働時間や上司・同僚の理解など)の改善」が1位、次いで「男性の意識向上を促す社会運動」となった。

○家事分担の現状

Qパートナーに行って欲しいと思う家事



男性が女性に期待する家事のトップ3が「食事の準備」である一方、女性が男性に期待する家事の1位は「お風呂掃除」、次いで「ごみ捨て」となっており、女性側に準備や手間のかかる家事が偏る傾向にある。

○家事代行サービス利用について

Q家事代行サービスを利用しにくい理由(複数回答)



家事代行サービスの利用状況については、使ったことがあるとの回答が4.2%であり、9割以上が利用したことがないとの回答であった。利用しにくい理由としては、「費用が高い」、次いで「自宅に知らない人を入れるのに抵抗がある」となった。

費用面や信頼性の向上が利用率の向上に繋がる可能性を示している。また、男性は女性よりも「家族が嫌がると思う」、「そもそも家事は家族で間に合っている」との意識が強い。